

日本プレスセンター

NIPPON PRESS CENTER

日本プレスセンターのあらまし

日本プレスセンタービルは、日本新聞協会加盟各社の出資により設立された「株式会社 日本プレスセンター」が建設し、日本の報道界の中核としての機能を発揮するものです。

諸外国の賓客や国内の重要人物を迎えての記者会見を主要な任務とする日本記者クラブ、新聞界の共同団体である日本新聞協会、また新聞・報道各社の支局や取材拠点、そして外国の報道機関に取材の便宜を提供するフォーリン・プレスセンターなどを収容しています。

最上階の10階には国際会議のできるプレスセンターホールとレストラン、8階にはこの建物の特色の一つであるキュービクル(仕事部屋)が多数設けられています。また報道界以外の一般入居者を対象とした貸室部分もあります。2階の一部と地下1階には飲食店が入居し、外来者にも利用されます。

建物はドーム型の屋根をもつ独特の外観で、白い煉瓦で仕上げられ、堅固な構造と機能的な諸設備を備えたプレスの殿堂として完成しております。

OUTLINE

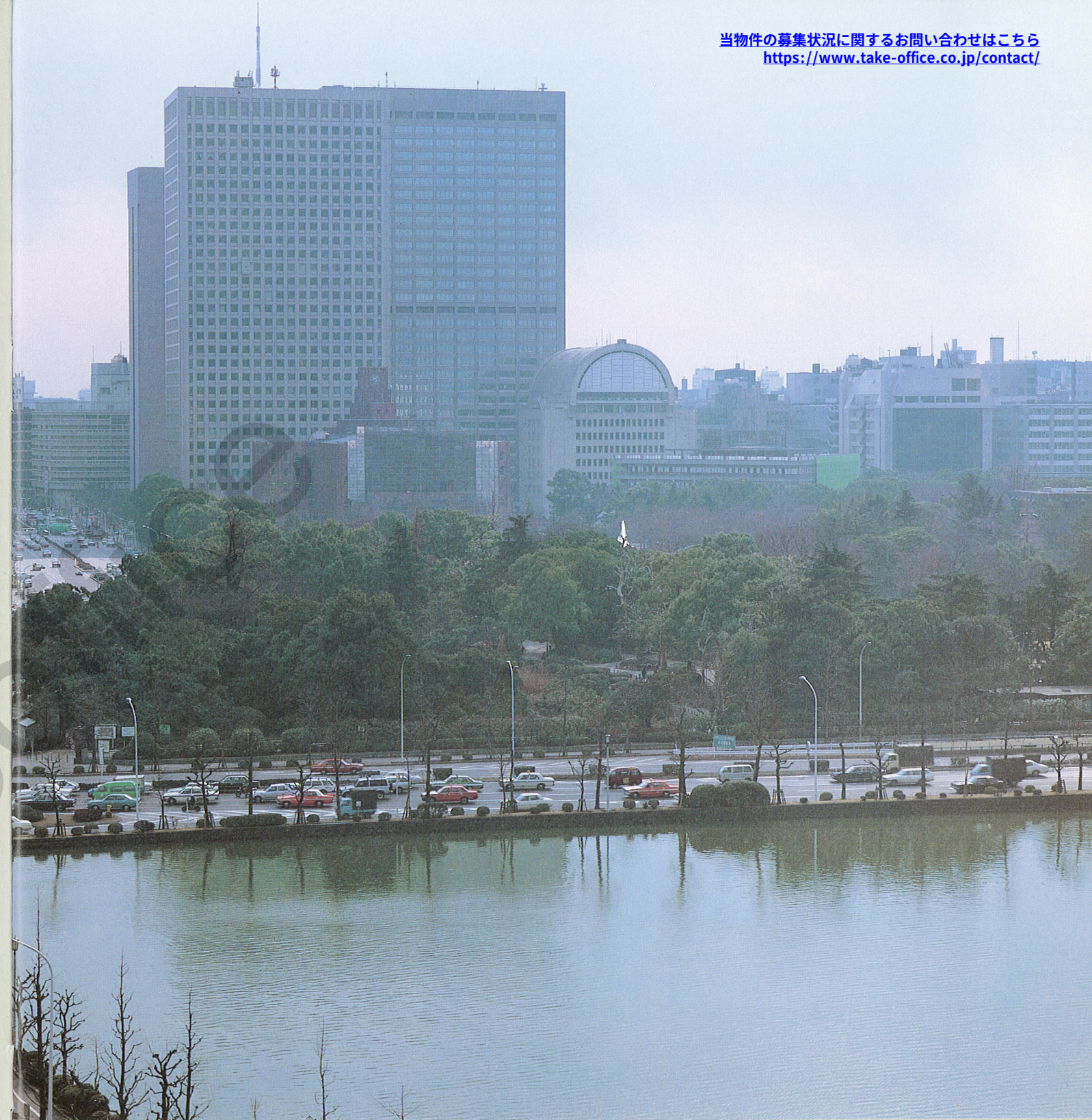
The Nippon Press Center Building was constructed by the Nippon Press Center Incorporated, a company formed through the joint investment of members of the Nihon Shinbun Kyokai (the Japan Newspaper Publishers and Editors Association) and is intended to function as the principal center of the joint activities of the Japanese newspaper world.

The Nippon Press Center Building will house the Nippon Kisha Club, which is Japan National Press Club having as its principal aim the sponsoring of press conferences of visitors from abroad and important domestic personalities; the Nihon Shinbun Kyokai, a cooperative organization of the Japanese press; the bureaus and the newsgathering bases of newspapers and other media and the Foreign Press Center, a foundation providing conveniences and assistance to foreign correspondents and foreign news organizations in their work of covering Japan.

The top floor, the tenth, contains the Press Center Hall, which can serve as an international conference site, and also a restaurant.

One of the outstanding features of this building is the cubicles occupying the eighth floor, which will be used by reporters from various news organs as work rooms.

The exterior of the building is finished in white brick and the roof consists of a unique dome. A large quantity of steel has been used in the central core parts of the building, giving great strength to the entire structure. The Press Center Building stands dignifiedly to befit the pressmen's base.







〈左〉一玄閣ポーチ 〈右上・右下〉一玄閣ホール



〈上〉-4ヵ国語用同時通訳室 〈下〉-調整室

〈左〉-国際会議スタイル 〈右〉-着席会食スタイル

10階の南半分600m²(180坪)を占める大ホールはプレスセンターホールと名付けられました。このホールは特色あるドームの形を内部にも生かした3階分吹抜けの高い天井を持っています。その上、上下に動く防音可動壁で3つに仕切ることができます。プレスセンターホールは教室スタイルで400名余、着席会食スタイルで380名が収容できます。またエレベーターホールとの間に休憩用のロビーが設けられています。

このホールは国際会議場として利用できるよう充分な諸設備が用意されています。吹抜けを通してホールを見下す11階に、4ヵ国語用同時通訳室、重要なプレス・ランcheonなどの催しのためのテレビ同時中継放送室、会議取材のための報道室の他、映写室、調整室などが設けられています。

プレスセンターホールは多目的に使用できるよう設計されており、一般の利用にも供されることになっております。





【日本記者クラブ】

日本記者クラブはわが国のナショナル・プレスクラブで、1966年に創設されました。母体は日本新聞協会、日本民間放送連盟、日本放送協会、日本に來訪する国賓・公賓をはじめとする重要人物や、国内の時の人物を招いて昼食会や記者会見を催しています。フォード大統領をゲストとする昼食会や、天皇・皇后両陛下とのはじめての記者会見は日本記者クラブの行事でした。プレスセンタービルの完成により、間借りしていた帝国ホテルから新しい建物の9階に移り、常設の記者会見場をはじめ、クラブ員の憩いの場となるラウンジ、バー、そして大小会議室、宴会場、メンバーズ・レストランなどを備えました。従来、クラブ員は現役記者が中心でしたが、今後は各界の指導的地位にある方々や各方面の広報担当の方々にも賛助会員として、新しい施設を大いに活用していただきます。プレスと情報源の接触・交流をはかり、同時に内外報道人に親睦・社交の場を提供するのがこのクラブです。



〈左〉ラウンジ 〈右上〉宴会場 〈右下〉会見室





[キュービクル]

キュービクル(仕事部屋)は、この建物の特色の一つです。8階の南側フロアに小部屋を並べ、新聞社などの取材拠点として利用できるように設計されています。このキュービクルは、新聞社の利用に供するだけでなく、フリーランスの記者などの個人でも利用できます。また外国プレスにも開放されています。

キュービクルは大小いくつかのタイプがありますが、最小の6.2m²(2坪弱)の部屋でも椅子・テーブルの他にロッカーやソファを置くことができます。キュービクルは日本記者クラブのすぐ下の階にありますのでこれらふたつの施設を併せて利用することにより、このプレスセンターの機能を最も効果的に使うことができるわけです。

〈上〉一左右に並ぶキュービクル
〈下〉キュービクル内部

[日本新聞協会]

日本新聞協会は日本の新聞界(放送を含む)の共同団体で、新聞の倫理水準を向上させることと、共通の利益を守ることをその主要な任務としています。創立は1946年で、理事会のもとに編集をはじめ販売・広告・技術など各種の委員会が構成されています。また審査室には各新聞社で経験を積んだ古参記者が集まり、全国の新聞紙面に目を通して新聞倫理を逸脱したものがないかを審査しています。そして新聞社員を対象とした講習会やセミナーの開催や出版活動も行なっています。

国際的にはFIEJ(国際新聞発行者協会 Fédération Internationale des Editeurs de Journaux et Publications)の有力なメンバーであり、IPI(国際新聞編集者協会 International Press Institute)にも参加し、世界のプレスの発展のためにつくっております。

日本新聞協会は日本プレスセンタービルの7階全フロアを占め、日本の報道機関の中央機関としての機能を発揮しております。

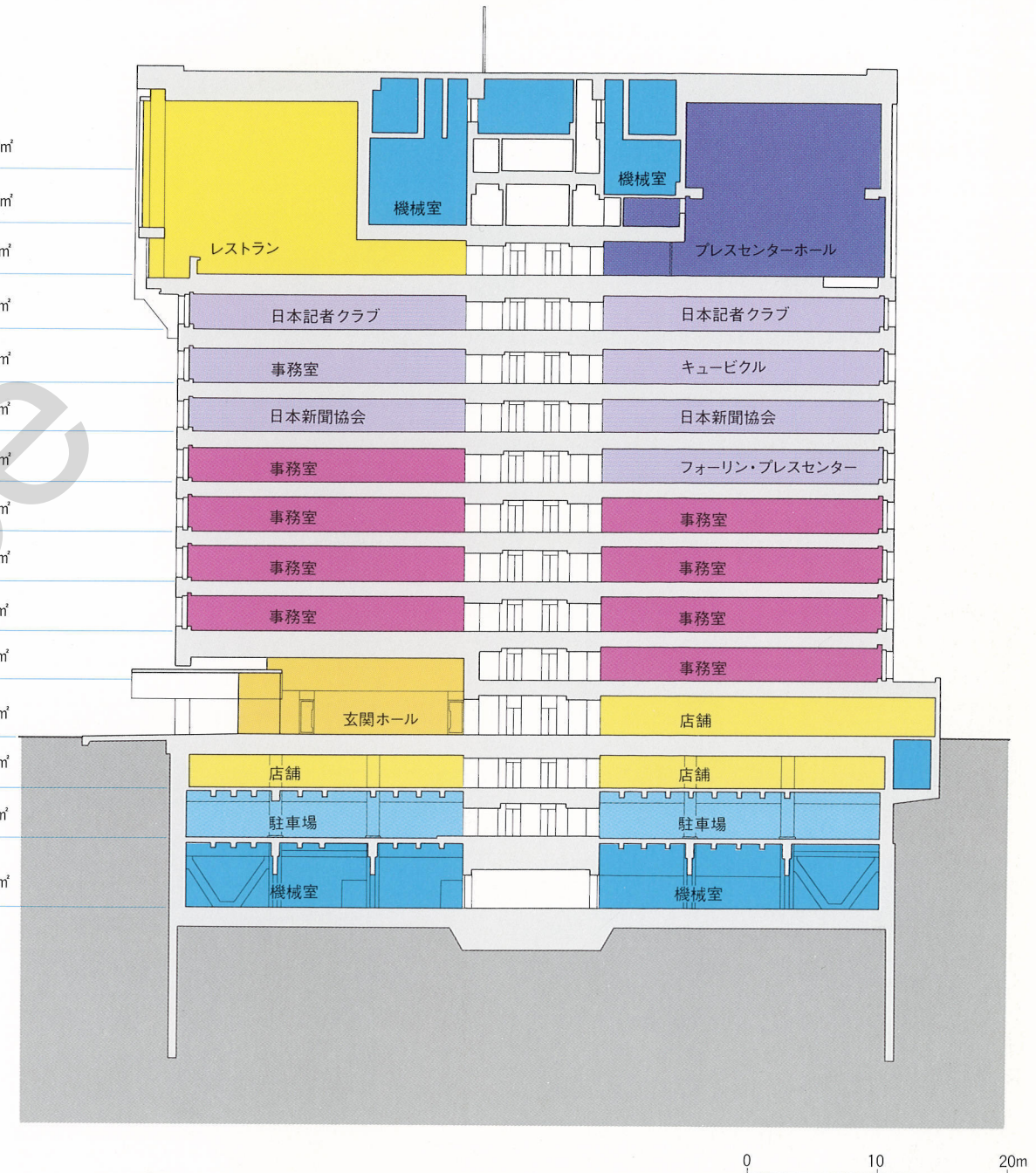
〈上〉一会長役員室 〈下〉一事務室

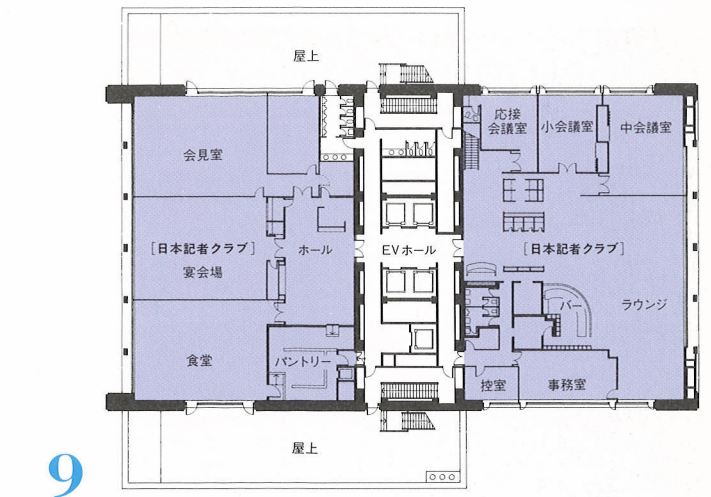
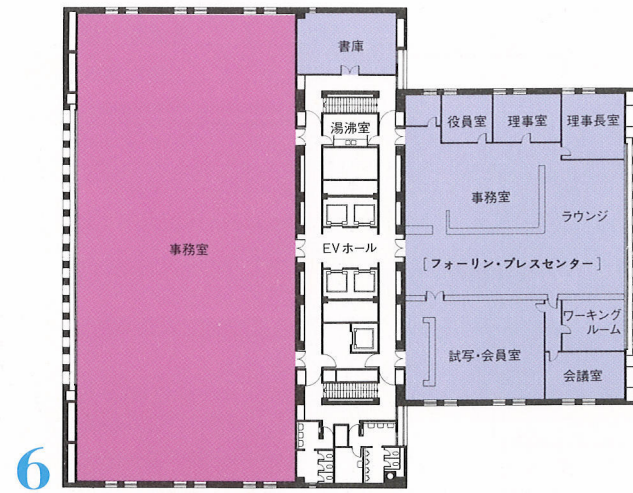
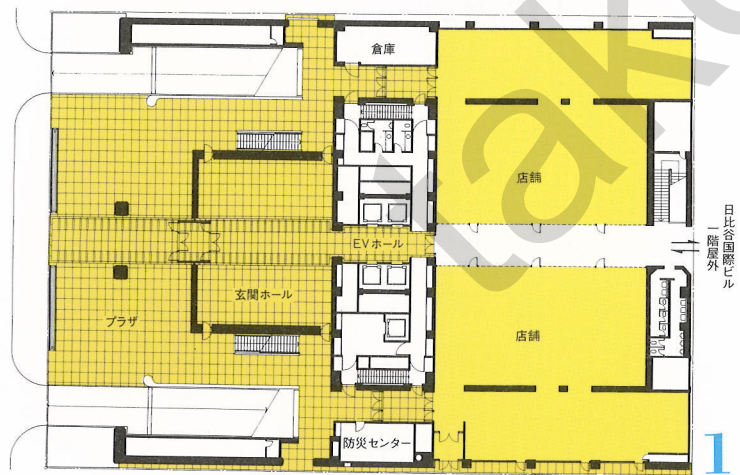
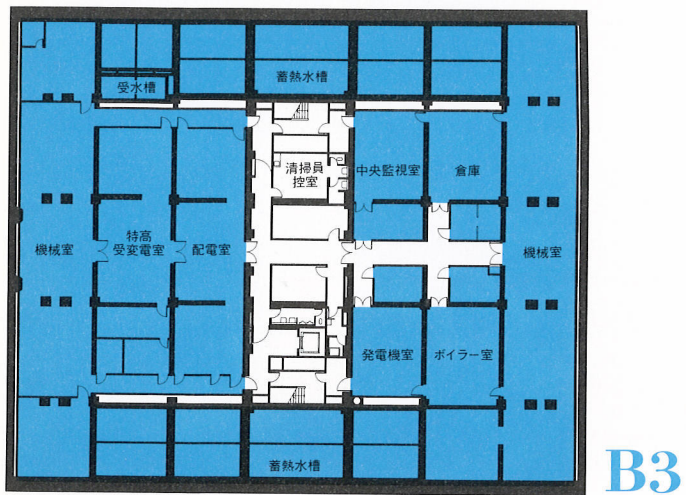
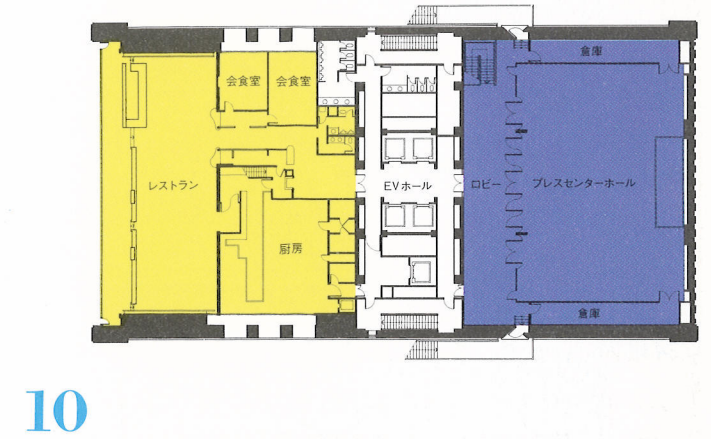
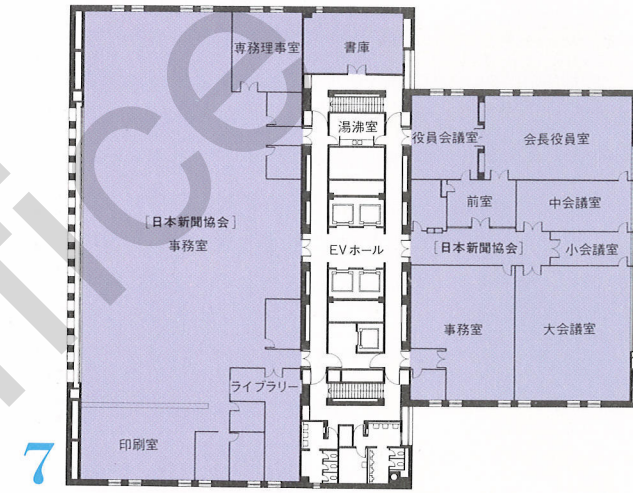
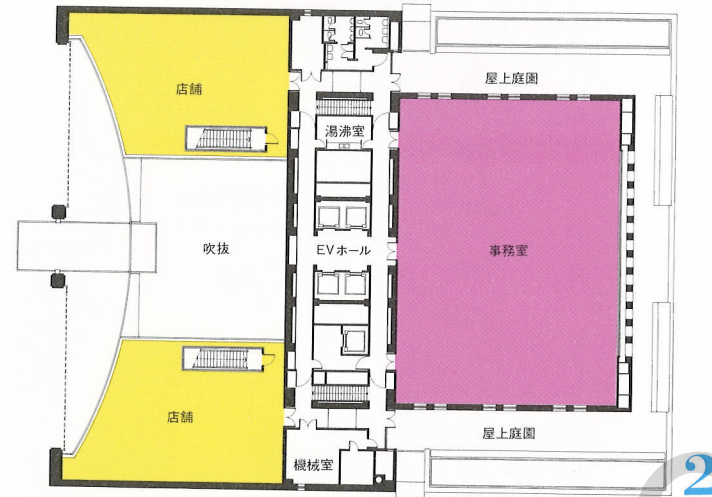
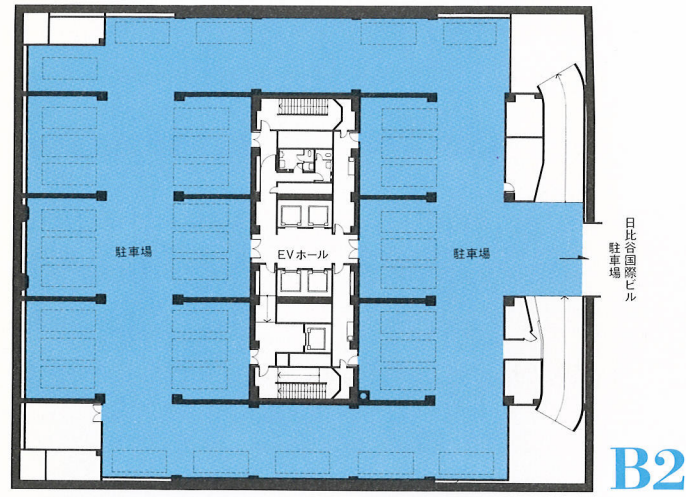
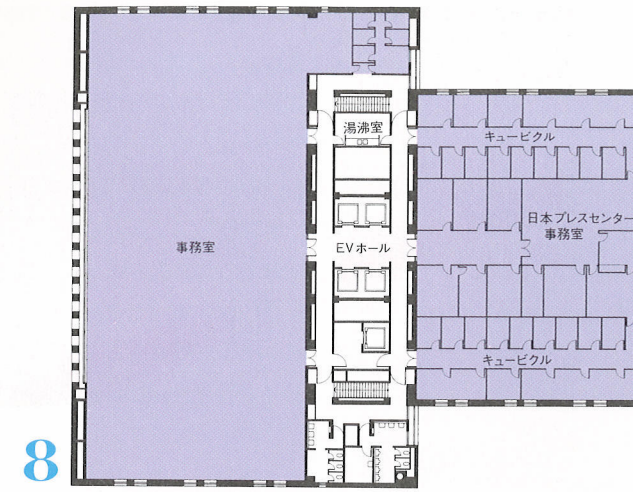
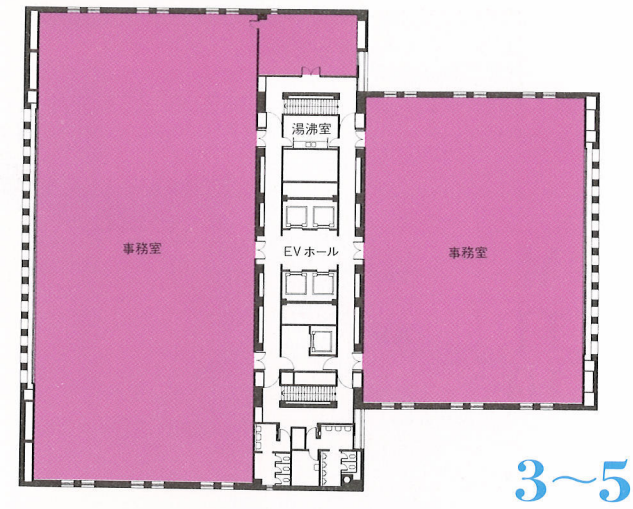
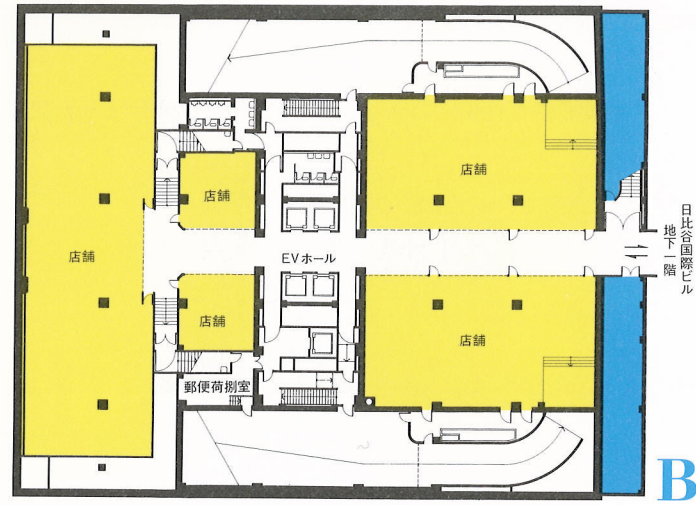




〈上〉—事務室 〈下〉—エレベーターホール

M	396㎡
11	767㎡
10	1,487㎡
9	1,471㎡
8	1,942㎡
7	1,942㎡
6	1,942㎡
5	1,942㎡
4	1,942㎡
3	1,942㎡
2	1,519㎡
1	1,835㎡
B1	2,512㎡
B2	2,340㎡
B3	1,758㎡







[立地条件と将来計画]

プレスセンタービルは国会大通りを隔てて日比谷公園に面しており、霞が関官庁街に隣接しています。地下鉄は日比谷線、千代田線、都営三田線の各駅が至近距離にあり国電新橋駅、有楽町駅には徒歩でそれぞれ10分、15分のところにあります。また首都高速道路霞が関インターチェンジに近く、東京国際空港に30分で行けるなど、プレスセンターとしての機能発揮に最適の交通の便に恵まれた位置にあります。

この建物のある内幸町一帯は特定街区に指定されており、プレスセンタービルはその第1号ビルとして完成しました。隣接の富国生命ビルが1980年1月に、三菱地所の日比谷国際ビルが81年10月に、ついで物産不動産の日比谷セントラルビルが83年5月にそれぞれ竣工しました。これら3つの建物はいずれも30階前後の高層ビルになり、全敷地の50%以上が人工地盤の緑を豊富にとり入れた広場になりました。

この特定街区の一番の特色は、日比谷道路側の約1,600m²(500坪)のサンクガーデン(地下に掘り下げた庭園)です。有名なニューヨークのロックフェラーセンターのサンクガーデンより広く、各建物の地下1階商店街にすべて連結します。各建物の地下は、1～2階に商店街、3～4階に駐車場、5階に地域冷暖房用のエネルギープラントが設けられています。

＜左＞一周辺航空写真

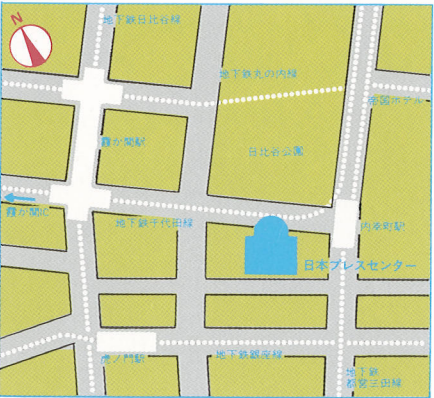
[日本プレスセンターの組織と運営]

日本プレスセンタービルの建設は日本新聞協会の永年の願望でした。世界の主要国にはこの種の会館があるのに、新聞王国といわれる日本に自分たちの城がないのは、なにかにつけ不便でもあり、不自由でした。このため日本新聞協会が千代田区内幸町に土地を購入し、主要各社が出資して日本プレスセンタービル建設のための株式会社を設立し、この新会社が新聞協会の土地に借地権を設定してビルを建設しました。

日本プレスセンターの取締役、監査役にはすべて新聞協会の運営理事が就任し、社長には新聞協会会長が就任する慣例になっています。また常勤の役員は新聞協会の事務局次長ほか部長級が専任しました。

1972年12月の会社設立時の授権資本は6億円でしたが、1974年には12億円に、1976年6月には24億円に増額されました。石油ショック後の着工のため、建築コストの高騰に対処したものです。

周辺交通図



会社概要

会社名	株式会社 日本プレスセンター
所在地	東京都千代田区内幸町2-2-1 〒=100 電話=03-580-1581<代>
資本金	24億円<授権資本24億円>
主な事業	①—報道センターとしての機能を発揮するために必要な諸業務 ②—不動産の保有、管理、賃貸借およびそれに伴う投資 ③—前各号に付帯する一切の業務

会社役員

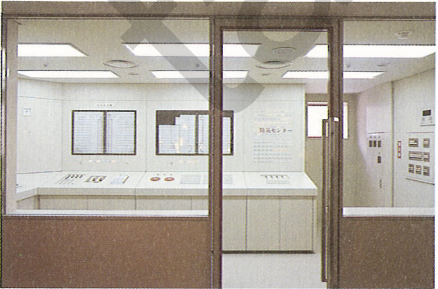
代表取締役社長	渡辺誠毅 <日本新聞協会会長・朝日新聞社社長>
専務取締役	前田雄二 <日本新聞協会参与>
常務取締役	中根久太郎
取締役	山内大介 <毎日新聞社社長>
取締役	小林與三次 <読売新聞社社長>
取締役	志賀正信 <共同ビルディング株式会社会長>
取締役	森田 康 <日本経済新聞社社長>
取締役	加藤巳一郎 <中日新聞社社長>
取締役	福田利光 <西日本新聞社社長>
取締役	山本 朗 <中国新聞社社長>
取締役(総務部長)	永町敏昭
監査役	服部敬雄 <山形新聞社社主>
監査役	森田 茂 <徳島新聞社会長>
監査役(常勤)	小川宗之助

建物概要

建物名称	日本プレスセンタービル			
所在地	東京都千代田区内幸町二丁目 2 番 1 号			
設計監理	株式会社 日建設計			
施工	日本プレスセンタービル新築工事共同企業体 清水建設株式会社・株式会社 竹中工務店			
設備	電気	関東電気工事(株) 豊国電気工業(株)		
		近畿電気工事(株) 大栄電気(株)		
	空調	高砂熱学工業(株)		
		新菱冷熱工業(株)		
	衛生	須賀工業(株)		
	昇降機	三菱電機株式会社		
工期	着工	昭和49年 8 月19日		
	竣工	昭和51年 7 月31日		
●規模	階数	地下 3 階・地上11階・塔屋 2 階		
	敷地面積	3,275m ²		
		有効面積<A>	2,925m ²	
		私道面積	350m ²	
		建築面積	2,556m ²	
		延床面積<C>	25,727m ²	
		駐車場面積<D>	2,340m ²	
		建べい率<B/A>	87%	
		容積率<C-D/A>	799%	
		軒高	GL+31.7m	
		最高部高さ	GL+49.5m	
		地下深さ	GL-14.1m	
	●主な仕上げ	外部		
		屋根	特殊レンガタイル打込みプレキャストコンクリート版葺き 陸屋根部 アスファルト防水 磁器タイル貼り	
	外壁	特殊レンガ打込みプレキャストコンクリート版張り スチールホーローパネル張り 大理石本磨き嵌込み		
	建具	ブロンズ アルミ <焼付塗装> スチール<ホーロー, 焼付塗装, 粉体塗装>		
	内部	[天井]	[壁] [床]	
	玄関ホール	石綿小巾板張り 大理石張り, 特殊レンガ積み 花崗石貼り		
	事務室	岩綿吸音板	プラスターボード塗装仕上げ 繊維床	
	会議場	岩綿吸音板	裂地貼り 繊維床	

●構造	主体構造	鉄骨鉄筋コンクリート造, 一部鉄骨造	
	基礎	外周部	清水式場所打ち地下構築工法<S.S.S.工法> による鉄筋コンクリート地中壁
		内部	深礎工法による鉄筋コンクリートピア基礎
	主なコンクリート強度	FC=210kg/cm ² <軽量コンクリート>	
	主な鉄骨材の種類	SS41, SM50A	
	総鉄骨量	3,300t	
●設備	総鉄筋量	2,806t	
	総コンクリート量	20,660m ³	
	空気調和設備		
	冷凍機	ターボ冷凍機	250RT 1台
		ダブルバンドルコンデンサー型ターボ冷凍機	250RT 1台
	蓄熱槽	700m ³ 2槽	
	ボイラー	定格3.85t/H 1基	
	空調方式	VAV制御による全空気方式	
	給排水衛生設備		
	受水槽	上水用	50m ³
		中水用	100m ³
	高置水槽	中水用	14m ³
	給水	上水	直送方式
	給湯	中央給湯	
	防災	全館スプリンクラー設備, 屋内消火栓設備	
		連結送水管設備<3階以上>	
		ハロゲン化物消火設備<電気室関係>	
	電気設備		
	受電	22KV ネットワーク3回線	
	契約容量	2,200KW	
	主変圧器	1,500KVA 3基	
	発電機	750KVA <ディーゼル 900PS> 1基	
	昇降機設備		
	乗用	直流ギヤレス 180m/分	1,350kg 20名 4台
	非常用<人荷用兼用>	直流ギヤレス 120m/分	2,000kg 17名 1台
	その他の設備		
	会議場音響設備	映写設備	同時通訳放送設備 放送中継線設備

防災センター



表紙写真説明——プレスセンタービルの外装の煉瓦です。世界の名峰モンブランの万年雪の色を模したこの白色煉瓦は、日本で初めて焼き上げに成功したもので、ボソン・ホワイトと名付けられました。

航空写真提供＝朝日新聞社 写真撮影＝門馬金昭

当物件の募集状況に関するお問い合わせはこちら
<https://www.take-office.co.jp/contact/>

当物件の募集状況についてのお問い合わせは[こちら](#)まで

takeoffice

テイクオフィス株式会社

東京都中央区築地 1-9-12

TEL:03-6278-7711

URL:<https://www.take-office.co.jp/>